

保育の質の維持・向上のために ー検討課題として考えられることー

大豆生田 啓友
(玉川大学)

プレゼン内容について

以下、4つの視点から保育の質（プロセスの質が中心）の維持および向上のための視点をお話します。

- ①保育の質の維持・向上のために
- ②外部研修と保育の質の維持・向上
- ③園内の質向上のための記録、研修、ICT化について
- ④保育の質の評価について

イントロダクションー保育の質の時代へー

- 子ども・子育て支援新制度のスタート(子育ての社会化・保育の量と質)
- 学校教育の21世紀型スキル(コンピテンシー)の育成への転換(アクティブ・ラーニングへ)
- 保育ニーズの増大、子どもの貧困率の問題等
- 3法令改訂(改定)→幼・保・こ、同じ教育機能小学校への接続→幼保一体化時代へ、すべての乳幼児への質の高い保育の確保
- 教育・保育の質の維持・向上のための研修、評価、資格、養成のあり方の検討へ

①保育の質の維持・向上のために 研究仮説として (大豆生田・高嶋・三谷2011)

ヒアリング調査の結果、以下の傾向が見られた。

- ①子ども主体の活動、遊びを重視している。
- ②子どもの姿を「語り合う」風土がある。
- ③職員同士の関係性(同僚性)がよい。
- ④保護者に、子どもや保育の姿を保護者に伝えるなど、家庭や地域に開かれている。
- ⑤上記の方向性は、園長などリーダーを中心に保育を変えてきた経緯がある。

子どもの育ちや学びの姿を
語り合う(対話)、
開かれた同僚性の形成が、
保育の質の維持・向上の鍵

そのため、
専門職としての保育者の
研修・評価・資格・養成等の
仕組みをいかに確立するか

保育の質と「子ども主体の協同的な学び」の保育

(n=300予備調査結果)

(大豆生田・松永・荒牧・無藤2017)

子ども主体の「協同的な学び」の保育を積極的に行っている園は、

- ①園の雰囲気が良い(同僚性)、
- ②遊び環境が充実しており、
- ③保護者や地域にも開かれている。

「子ども主体の協同的な学び」の保育 ー小学校との学びの連続性ー

- 主体的、対話的で、深い学び(アクティブ・ラーニング)としての遊びによる乳幼児教育。小学校との学びの連続性。
- 「プロジェクト・アプローチ」などもその一つ。
- 子ども主体のテーマを基盤とし、対話を通して発展的に展開する。
- 子ども・保育者・保護者・地域などの対話を重視(ドキュメンテーションによる可視化と共有)
- 10の姿の可視化

②外部研修と保育の質維持・向上 (キャリアアップ研修等)

- 横浜市等のキャリアアップ研修の工夫。外部研修と園内研修の往還(往還型の研修)。すべての受講者が成果をポスター発表。
- 墨田区、横浜市などで実施している「公開保育型」の研修。自治体での公開保育の実施による保育の質向上の取り組み。
- 園長・主任まで視野に入れた研修システムの確立(兵庫県等の取り組み)
- 自治体の保育アドバイザーの養成

横浜市の園内研修リーダー育成研修 ーキャリアアップ研修の「往還型」へー

- 自分の園でやってみたいことを実現する成果を出すアクティブな研修へ。
- 研修参加者が課題を決めて、園内で実践する取り組み。写真活用型園内研修、ドキュメンテーション作成、遊び環境の見直し、プロジェクト型の実践、等々の成果
- 公立・私立、保・幼・この合同研修。横浜市内でのポスター発表会、公開保育実施園の発表。

キャリアアップ研修に関する研究

(私保連・研究機構2017 大豆生田・北野・高嶋・三谷)

- キャリアアップ研修が、保育の質向上につながるためのありかたを検討。
- 外部研修と内部研修をつなげる「往還型」の研修の開発と検証。(現在、横浜市でのアンケート結果がまとまりつつある。)
- キャリアアップ研修の対象が、副主任保育士クラスのみならず、初任から、リーダー層、さらに主任・園長までを視野に入れた、キャリアパスとしてのキャリア全体のモデル案作成。

「子ども主体の協同的な学び」研修プロジェクト (公開保育)における保育者の変容の構造

(2018岩田・三谷・大豆生田・高嶋・松山)

外部講師 保育者の不安や思いをうけとめる・方向を見出すきっかけ

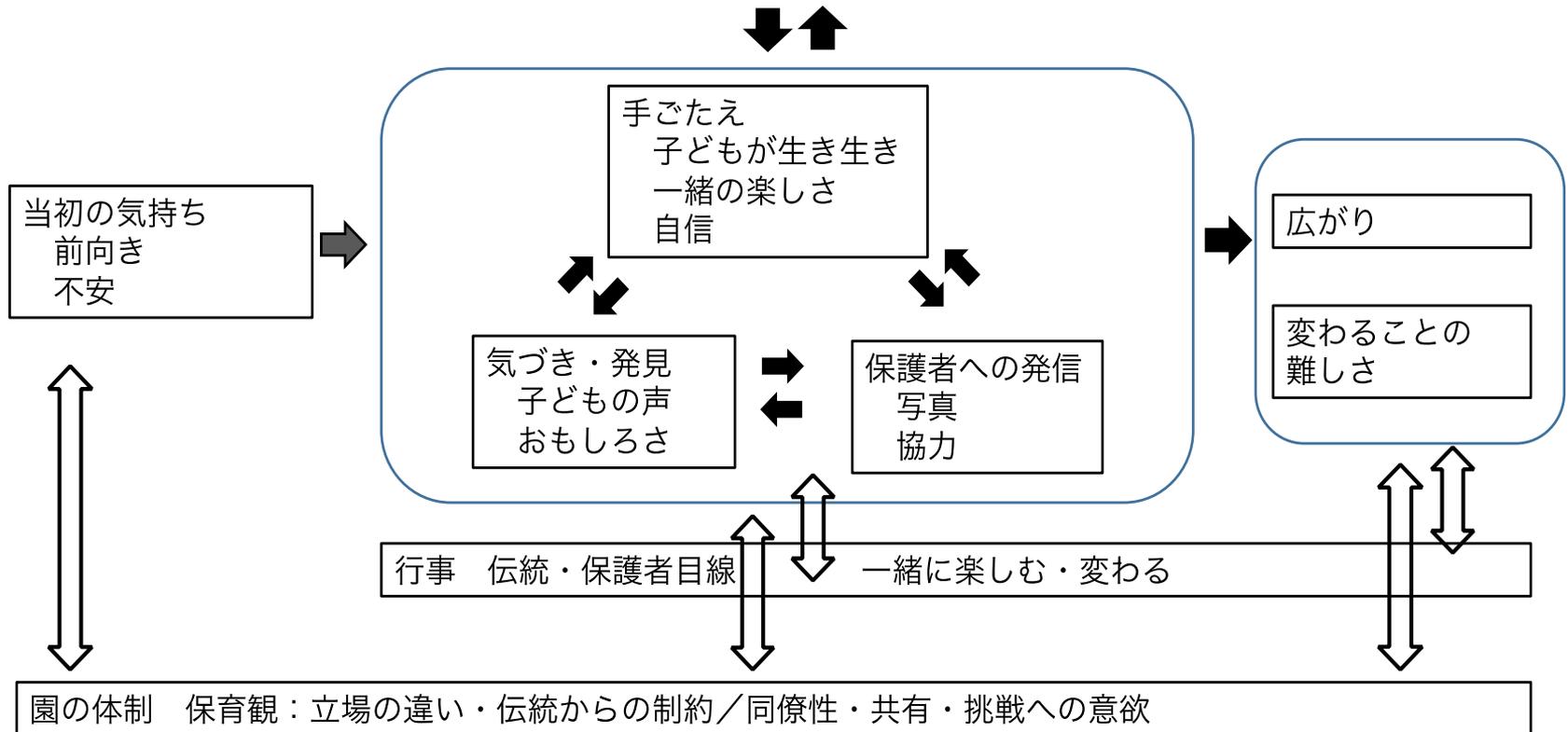


Figure 「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」を保育者はどう受けとめたか

研修が変容をもたらす要因

(2018岩田・三谷・大豆生田・高嶋・松山)

- 研修の「手応え」をもたらすのは、子どもの姿への気づきと発見。そして、その発信に対する保護者からの反応。
- 外部講師の役割・機能。保育者の不安を受け止め、現状を肯定し、方向性を示していく役割。(園内にそうした研修コーディネーターの役割の必要性)
- 保育の変容を左右する園の組織・文化(保育観、同僚性、リーダー層のスタンス等)。

③園内の質の維持・向上のための記録、研修、ICT化について

保育の質の維持・向上とICT化

— 質向上へのICT化の貢献の可能性 —

- まず、質の維持・向上のため、省力化を踏まえ、記録様式や記録方法の一元化、取りやすさ、活用のしやすさの工夫が必要。
- 日々の記録のあり方とその対話が、保育の質の維持・向上に重要。
- ICTの可能性として、写真、動画、音声など大量データの収集と処理の省力化
- アセスメントと発信のしやすさ：ドキュメンテーション、ポートフォリオ等の活用。

「保育の可視化のためのドキュメンテーション化のプロセス(案)」(2018大豆生田・岩田)

- **一次記録** 日々の保育の中で、保育者の心が動いた場面を随時、写真を撮り、メモする。
- **二次記録** 日々の記録からいくつかの場面を取捨選択し、コメント(考察)や明日への展望(プラン)を作成する(SOAP型との共通性)。場合によって、これを保護者に発信する。
- **三次記録** 二次記録を積み重ねた短期・長期の期間のまとまりのある「学びのプロセス」の記録として作成し、発信する(ドキュメンテーション化)。
- **派生記録** これらのプロセスを日誌、指導計画、個別記録(ポートフォリオ)、おたより、研修記録等に運用。

A保育園の 可視化の4つのツール

- **ボードフォリオ** 3歳以上児 活動のコメント
写真と共に毎日(一次記録)
- **壁新聞** 3歳以上児 週単位(二次記録)
- **ドキュメンテーション** 3歳以上児 テーマ性のある記録(二次記録→三次記録)
- **ポートフォリオ** 3歳未満児 個別記録 個別の指導計画 保護者のコメント(往還性のある記録) (一次記録→二次記録)

④保育の質の評価

- 質の高い保育の維持・向上のためには、実践につながる「自己評価」が不可欠。
- 「自己評価」とは、保育士が日々の保育（記録や計画）を通して「自らの保育実践を振り返り」、「専門性の向上や保育の改善」につながるもの。
- さらに、日々の自己評価を園内研修（事例検討等）につなげることで、園の質の維持向上につなげる。
- 自己評価の結果を公開する。
- 自己評価は、保育の質の維持向上（つまり、子どもの育ちや学びの姿を語り合う、開かれた同僚性の形成）につながることを目的。

- 「自己評価」は、日々の記録(計画)、研修(外部・園内)を一連のものとして捉えていくことが重要(評価して終わりではない)。
- 多様な自己評価ツールの可能性。1つだけではなく、それぞれの特徴を生かした活用。
- 自治体における保育の質ガイドラインの作成と運用(世田谷区、等)
- 自治体等における「公開保育」実施による自己評価システムの構築(墨田区、ECEQ、等)
- 「自己評価ガイドライン」の運用(園内で保育の質の維持・向上する仕組み)

まとめ

- 園内の保育の質を高める仕組み（日々の保育を記録し、振り返り、語り合い、学びの可視化、協同的な学び、等）を一般化するための自己評価の実施。記録の工夫やICT化の可能性。
- 外部研修を通して園内の保育の質向上につなげる（往還型の）仕組み作り。初任から主任・園長まで視野に入れたキャリアパスにつながるキャリアアップ研修システムの確立。
- 自治体での研修や公開保育（地域の関係者など外部の者による評価）の仕組みの工夫。園内研修コーディネーターや保育アドバイザーの育成の仕組み。保・幼・こ（・小）の合同研修の一般化。